

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400624		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲		
所在地	熊本県玉名郡長洲町折崎633番地5		
自己評価作成日	令和2年 11月 23日	評価結果市町村報告日	令和2年 1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全体的に重度の方が増えてきている状況に照らし合わせ、ご利用者お一人お一人の個性や現状態に応じて安心・安全に生活していただけるように個別ケアが中心なりつつありますが、ご利用者とは「家族として暮らす」をモットーとして、日々笑いの絶えないホーム作りを目指し職員一同日々研鑽し、努力しています。ご利用者に質の高いより良いケアをチームとして提供できるためには職員間の人間関係の構築であると考え、何でも言い合える職員間の輪を大切に情報共有の徹底と互いを思いやる気持ちを持ちながらご利用者と向き合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の「笑顔と自信を大切に生き生きとした毎日を送って頂きたい」の大きな考えのもと事業所での穏やかな生活が送られています。年々入居者の高齢化がみられ、より個別介助が求められている中、職員は職員研修・会議を重ね、「自分(職員)のペースに入居者を巻き込んでいかを一人ひとりが自問するように確認し、拘束・虐待に繋がらないようなケアを行うための情報を共有し、入居者の声なき声を聴く」ことでより良いケアに臨む姿勢が確認できました。職員面談時にも「良かれと思っても押しつけになっていないか?」と自問していることも聞かれました。今年度は管理者・職員の異動もあり、新しい風の中、職員の質の向上に向けた取組に大きな期待が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まず入職時のオリエンテーション時に法人理念の説明を行い、その後は毎日の朝礼での唱和、日々の業務の中での確認・説明・共有を図っている。	これまでの理念の勉強会や毎日の唱和で職員間への定着が見られる。管理者は、日々のケアを理念と照らし合わせ職員へ話す機会を持っている。職員入職の際は、理念の説明と、事業所の考えである「地域に根差して」「笑顔を出す」ことを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの影響で交流にもかなりの制限が加わっていますが、自治会には参加しており、地域行事への参加や施設の行事等への参加をいただいている。また、七夕やお正月には必要な笹や竹をいただいたりしながら行事を支えていただいている。	地域の一員として自治会に加入し、地域活動にも参加している。例年、地域の清掃には職員も参加している。今年度は感染症対策で地域との交流は難しい状況であったが、地域区長も事業所の活動に協力的であり、例年と変わらない理解を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会で施設の紹介や認知症についての理解を深めていただくための説明をさせていただいたり、町の介護保険事業所と連携しながら物忘れ相談窓口や「こども110番の家」も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に実施し、当施設の現状(入居者・入退居・行事等)の報告やテーマを決めての勉強会を行いながら当施設及び認知症についての理解を深めていただいている。また、委員の皆様からの意見や提案もいただきながら情報交換を行っている。	隔月開催の運営推進会議では、事業所・入居者の状況や活動の様子報告だけでなく、テーマを持った勉強会等もやっている。会議は地域との関わり・交流を深める場でもある。	例年では、運営推進会議を活かし、地域との関係も良好な様子が聞かれました。今年度は感染症対策の面から書面配布を余儀なくされていますが、このような時期であるからこそ、様々な視点での意見を得ることができる取組みへの工夫を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護事業所連絡協議会の会員として委員会や研修会への参加、また運営推進会議でも顔を合わせる機会が多く、その際に情報交換しながら良好な関係作りが出来る。	運営推進会議への参加、事業所としての町への協力等、日頃の様子を伝えるとともに情報交換を行い、協力関係の構築を行っている。今年度は感染症対策の面で連絡もより密となった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議、3ヶ月毎の拘束虐待委員会にて事例検討や勉強会・意見交換しながら各個人が日頃のケアを振り返り、よりよいケアを提供できるよう努めている。	毎月の職場会議では、身体拘束をせず行うケア、日頃のケアの中で感じたことを職員間で話し合う等、テーマを持ち職員間で学び共有する場を設けている。身体虐待委員会では、職員の対応・会話を記録し、振り返る機会を持った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では拘束虐待委員会や年間の勉強会、日頃からの互いの声かけを行い、また外部の研修会に参加した者は伝達講習を行い、職員全員が拘束・虐待についての意識を高めケアを実施している。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に盛り込み職員へ理解を深めている。権利擁護の普及員養成講習を受講した者は職員に伝達し、また必要に応じ家族へも周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際にはその後家族と施設の見解の相違が生じないように時間をかけ丁寧に説明し、都度不明な点はないか等確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口(施設及び家族会代表への連絡も可能)や苦情受付箱を設置し、苦情や意見があれば記録に残し、早急に検討・対策を行い答えを申し出者に戻すよう努めている。	家族からの意見は、面会時の職員対応、苦情受付窓口の紹介、運営推進会議への家族代表の参加等、複数の窓口を持っている。電話等による家族からの意見も記録を残し、検討・対応を行っている。	運営推進会議も書面開催となり、感染予防対策から、これまでの入居者・家族との関わり方との変化が見られた今年度でした。このような時期であるからこそ、家族の意見を聞く機会作りの工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	まずは職員から意見や提案が出やすい雰囲気・環境作りに努めており、日々の業務の中や朝礼時、毎月の職場会議の中で情報交換をしている。得た情報については管理者会議で話し合っている。	管理者が常勤であることから、職員はいつでも意見や提案を述べることができ、管理者からの声掛けも普段から行っている。毎日の申し送りも充実しており、毎月の職員会議等、意見を表す機会も作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の会議の中で経営報告や処遇改善等の説明、資格取得のバックアップや資格取得時の給与アップもについて代表者より報告があり、職員全員の周知を図っている。また、事業所内には職責ごとの役割を明記した一覧表も張り出し、職員の向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及び事業所ごとの勉強会の実施、新人研修等計画的に教育を行っている。また、年に3回の自己評価・管理者評価を行いそれを基に個人面談を行い職員一人ひとりと向き合うよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市のグループホーム連絡協議会や町の介護事業所連絡協議会、及び市町村主催の研修会には積極的に参加し、その中で情報交換等行いながら互いの質の向上が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時(入居前)及び入居時にも本人・家族から十分な聞き取りを行い、それを基に入居してしばらくの間は本人に対し目配り・気配り・心配りをしっかりと行い、新しい環境に早く慣れていただけるよう努めている。表情や行動についてはきちんと記録に残し、職員間で情報の共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が遠慮なく不安や困りごと、疑問に思われていることなどを一つでも多く聞き取りが出来、精神的負担を少しでも軽く出来るよう、安心して話しをしていただけるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の説明を行うとともに、他事業所・サービス等の説明を行い、本人が置かれた現状に一番即したサービスの選択ができるよう努めている。そのためにも他事業所・サービス内容についてもある程度知識を持てるよう日頃より情報収集を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「自分の家族だったら」と考え、ひとりひとりに対しての声かけや対応の仕方を工夫し、互いに笑顔で過ごせるようなケアが出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時また、遠方の家族には電話等で本人の様子を報告し、情報を共有しながら職員との信頼関係を築けるよう努めている。行事等にも参加を促し本人と過ごす時間を持ってもらうとともに施設内で本人がどのように生活されているのかを知っていただく機会も積極的に設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会やかかりつけ医の訪問診療、地域の理髪店の利用などを通して、住み慣れた地域のことを話したり、安心感や存在感を持ってもらうなどしながら地域との関わりを継続している。	例年、事業所と地域の関係性も築かれており、家族・知人・地域住民等の来訪や行事参加、ボランティア受入れ等も行っている。馴染みの美容院利用や馴染みの神社詣で等、外出による関係継続の支援も行っている。	今年度は、感染症予防対策のため、例年行っている支援が難しい状況でした。この状況が回復した際には、これまでの支援を是非継続して頂きたいと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性等にも配慮しながら他者と交流できる環境を作っており笑顔が見受けられる。他者との交流が難しい方に対しても職員が仲介役となり同じ場面で過ごし孤立しないよう努めている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡に際して契約が終了した方に対しては家族の了解を得て、お見舞いや通夜・告別式への参列をさせていただいている。入院については退院後の相談を適宜行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族に生活やケアに対する希望や意向を確認し、可能な限り思いに添うような暮らしができるよう努めている。また、本人の生活歴や表情・行動などからも思いを読み取れるよう本人と深く関わりを持っている。	入居者のこれまでの生活歴の把握、入居者への日々の寄り添い・関わりの中で意向を把握している。入居者の中には趣味の編み物を続けている方もおられる。今年度は特に入居者と共に過ごす時間も増え、より関係性も深まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん家族、ケアマネ・かかりつけ医など本人との関わりが深い方からも積極的に情報をいただき今までの暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や気付き等は記録に残し、全職員が情報を共有しつつ、状態の把握が出来る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の一連の流れの勉強会を年間計画に組み込み、ケアプランの必要性等も含め全職員で学んでいる。関係者それぞれの意見を組み込み本人の現状に即したケアプランの作成に取り組んでいる。	毎月の職員会議を利用して入居者の状況の共有を行っており、2ユニットそれぞれの管理者は全入居者の状況を把握し、家族に不安を与えないよう配慮している。入居者の高齢化も進んでおり、体調変化時には入居者の状況に沿った介護計画への見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態、ケアについては記録(生活日誌や月間チェック表)に記載し職員間で情報共有を図っている。課題や不都合が生じた場合には都度ミニカンファを行い、見直しや改善を適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の要望や様々なニーズに対応できるよう都度カンファレンスを行いながら、その時々最善の支援が出来るよう努めている。法人内の他事業所との連携も図っている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区长、民生委員、老人会長、地区消防団、近隣住民等を中心に施設内行事に参加していただいたり、地区行事にはこちらから積極的に出向くなどしながら交流を図り、地域の一員として暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される主治医に診ていただいている。主治医の中には訪問診療や往診も可能で日頃より情報を共有しながら利用者の健康管理に努めている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。町内の医療機関利用の入居者が殆どであるため、受診期間も長く、継続した診療に繋がっている。現状、往診が利用できる協力医の利用が多い。その他専門医受診の際は家族協力による通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職には介護の現場で看護の視点を持ったケアの方法についての助言をもらったり、利用者の状態変化について24H連絡、対応が出来る状態にしておくことで利用者が適切なケアや受診、看護を受けられる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーや口頭で情報提供を行い、入院中も必要な際には都度情報提供を行っている。また、退院後の状態や本人・家族の希望があれば受け入れ可能であり、再入居への備えは行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応についての説明とその時点での希望を聞き書面に残している。利用者が終末期を迎えた時には再度家族の意向を聞き、主治医も交え三者(家族・主治医・施設)で今後の方針を話し合い、情報を共有しながら可能な限り納得のいく最期を迎えられるようにチームとして支援していく。	入居時に終末期の医療について事前調査を行い、看取り看護についての同意を得ている。実際にその時を迎えた際には、関係機関・家族と連携をとり、話し合いを重ね情報を共有し支援している。訪問看護の受入れも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。マニュアルはいつでも見れるようにしており、年間研修計画にも盛り込み対応については学んでいる。また、応急手当普及員の研修を受講した者による実技も研修に含め実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年2回の防災訓練、地域の防災訓練への参加を通して消防署からも評価・指導を受けている。災害時マニュアルは全職員に周知徹底を行っている。水害についてはマニュアルの作成はあるが机上での学習のみで訓練を行ったことはないため今後の課題であると思われる。	消防避難訓練は、昼・夜想定で年2回行っており、非常時に備えAED使用についての共有等も行っている。訓練は担当制で、担当者は訓練を機会に非常食の点検・入替えも行う。年2回のコンセント点検も実施している。事業所停電時には自動点灯の仕組みがある。災害マップの要救護地域には該当しないが、マップの確認を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の1番目に掲げており、認知症であっても人生においては私たちの大先輩であるということを常に意識しながら、自尊心を傷つけないような言葉かけ、対応を行っている。	入居者の尊重とプライバシーの確保については理念にも掲げられている。入職時には特に大切なこととして管理者から職員へ伝えて	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の日頃の様子や言動をしっかりと把握し、思いや希望を推測するとともに、分かりやすい声かけや話しやすい雰囲気作りを心がけ、本人の思いに近づいて行けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活行動においては、本人のペースや状態・体調を考慮しながら安全を確保し本人のペースに合わせた支援を行っている。しかしながら常に傾眠状態で刺激の少ない生活を送られているような方に対しては年齢等も考慮しながら職員から働きかけを行ったりもする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月ごとの訪問カットや近所の理容店外出の支援を行っている。起床時の洗面や整髪、本人の好みや気候に合った衣服の選択を利用者とともにしたり、清潔感のある格好をしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注し、施設では温めと盛り付けを行っている。食事は出来るだけ自分のペースで自己摂取していただくことを目的として食事形態や食器の選択を行っている。また、食事前には口腔体操や拭き戻しも行っている。食事中はテレビを消し音楽を流すことで落ち着いた雰囲気で作っている。	現状入居者の重度化もあり、外注による食事を提供している。正月にはお節料理、夏祭りには楽しみメニュー等、折々で手作りの食事を盛り付けから楽しみ、おやつ作りやだご汁会等で入居者と一緒に食事作りから関わりを持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方が多いため、その方たちには少量ずつこまめに水分の提供を行っている。給茶機を導入し、こまめな提供を行いやすくする工夫も行った。夏場にはスポーツ飲料を手作りし提供した。甘み・かすかな塩味もあり、利用者には好評であり、熱中症予防にも役立った。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの方法は歯ブラシ使用、ガーゼ使用、うがい中心と様々であるが、利用者一人ひとりに合った方法で確実にしている。口腔内の不調や義歯の不具合等がある場合には訪問歯科の利用も行っている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンやトイレのサインを把握し、その方に合った声かけや介助を行いながらプライバシーに配慮した排泄が出来ている。また、使用するパット類等も一人ひとりの尿量や排泄間隔に応じて使用している。	できるだけトイレでの排泄を支援できるよう声掛け・誘導等支援している。夜間ポータブルトイレやオムツ等利用の際にも話し合いを重ね、それぞれにあわせた物を使用している。夜間ポータブルトイレ利用の際は、日中の清潔・臭気にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、排便状況を確認しながら、必要時には主治医と相談のもと内服薬を使用し排便コントロールを行っている。日頃より水分摂取や腹部マッサージ、身体を動かし自然排便が出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴を基本として支援を行っている。その際には本人の体調を考慮しつつ、希望に応じて実施している。また、移動式のシャワーチェアを購入し、重度の方も一人介助で支援できるようになり支援の頻度も増えた。	週2～3回を基本とし、希望により午前・午後ともに入浴が出来る。入居者の高齢化・重度化もみられるが、シャワーチェアの導入によりより安全な介助が出来るようになった。入居者の出来ることも大切に、入浴後の着替え選び等、選択の場面も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化も進み、必要な方については体力温存という意味合いからも居室での静養を促している。状態を見ながらではあるが、午睡が夜間の不眠に繋がらないように配慮を行っている。夜間覚醒のある方には無理に就寝を促さず、安全に過ごしていただけるよう配慮しながら見守りを中心に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1冊のファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしている。薬についてはセット時、服薬時、服薬後と何段階にもチェックすることとし、飲み忘れや誤薬がないように細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好まれること、得意なこと、本人が出来ること等を把握し、洗濯物を干したり、取り込んだり、たたんだり、掃除、花の水やり等、本人に合わせた役割を見つけるよう努め、自信を持って生活できるよう支援している。また、他者との交流や散歩、レクリエーション、行事への参加等で気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞いたり、推測しながら、気分転換が図れるよう体調等に合わせ中庭や近隣の散歩、季節の花見学、地域の行事への参加等で外出支援を行っている。また、受診の必要がある場合には家族の協力も得ながら外出していただいている。	入居者の高齢化・身体状況の低下もみられ、積極的に外出に意欲が見られる入居者が減ってきたのも現状である。個別に季節の花見や近隣の散歩等を支援している。例年春に法人全体でバス旅行を楽しんでいるが、今年は難しい状況であった。日頃は中庭や玄関先で外気を感じる時間を作っている。	

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はなく、全て家族管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも使用できる。また、家族から電話があった場合には電話に出てもらうような状況を作っている。遠方の家族に対しては、利用料の請求書と一緒に本人の様子を書いた手紙を同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や換気、温度管理等に配慮を行い、常に清潔な空間で過ごしていただけるよう努めている。また、季節の花や観葉植物を飾り目に優しい環境も作っている。家具の配置等にも配慮し、利用者が移動する際に危険とならないようにしている。	温かい陽射しを感じる事が出来るリビングには入居者の集う姿がある。入居者がリビングで過ごす間も1時間おきに換気し、その間は居室も窓を開け換気している。掃除の手伝いや洗濯たたみ等、入居者それぞれの出来る範囲での関わり作りを支援している。ユニット2台ずつ加湿器を配置し、温度・湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性を把握し、互いが心地よく過ごせるようテーブル席の配置を考えたり、畳コーナーで過ごしていただくなど、居心地よく安心して過ごしていただけるための環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物(ライター、ナイフ等)以外の持込の制限はない。本人・家族と相談しながら本人の馴染みの物、使い慣れたものを持ち込んでいただき、それまでの生活が継続できるよう努めている。認知症が進行し混乱が見られるようになったら、危険となるようなものは撤去し安全を確保するよう努めている。	入居者それぞれの生活スタイルにより、ベッド・布団等、使いやすい環境を整えている。生活用品は家族の関わりも見られる。日中はリビングで過ごす入居者も多く、換気もよく行っている。安全な歩行・移動のため、手摺り等も設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を、他にトイレやふろ場にも場所を明示している。施設内は自由に行き来でき、安全に行動できるよう手すりの設置があり、家具の配置も利用者の動線を考え安全に行動できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400624		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲		
所在地	熊本県玉名郡長洲町折崎633番地5		
自己評価作成日	令和2年 11月 25日	評価結果市町村報告日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和2年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全体的に重度の方が増えてきている状況に照らし合わせ、ご利用者お一人お一人の個性や現状に応じて安心・安全に生活していただけるように個別ケアが中心なりつつありますが、ご利用者とは「家族として暮らす」をモットーとして、日々笑いの絶えないホーム作りを目指し職員一同日々研鑽し、努力しています。ご利用者に質の高いより良いケアをチームとして提供できるためには職員間の人間関係の構築であると考え、何でも言い合える職員間の輪を大切に情報共有の徹底と互いを思いやる気持ちを持ちながらご利用者と向き合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まず入職時のオリエンテーション時に法人理念の説明を行い、その後は毎日の朝礼での唱和、日々の業務の中での確認・説明・共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの影響で交流にもかなりの制限が加わっていますが、自治会には参加しており、地域行事への参加や施設の行事等への参加をいただいている。また、七夕やお正月には必要な笹や竹をいただいたりしながら行事を支えていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会で施設の紹介や認知症についての理解を深めていただくための説明をさせていただいたり、町の介護保険事業所と連携しながら物忘れ相談窓口や「こども110番の家」も実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に実施し、当施設の現状(入居者・入退居・行事等)の報告やテーマを決めての勉強会を行いながら当施設及び認知症についての理解を深めていただいている。また、委員の皆様からの意見や提案もいただきながら情報交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護事業所連絡協議会の会員として委員会や研修会への参加、また運営推進会議でも顔を合わせる機会が多く、その際に情報交換しながら良好な関係作りが出来る。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議、3ヶ月毎の拘束虐待委員会にて事例検討や勉強会・意見交換しながら各個人が日頃のケアを振り返り、よりよいケアを提供できるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では拘束虐待委員会や年間の勉強会、日頃からの互いの声かけを行い、また外部の研修会に参加した者は伝達講習を行い、職員全員が拘束・虐待についての意識を高めケアを実施している。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に盛り込み職員へ理解を深めている。権利擁護の普及員養成講習を受講した者は職員に伝達し、また必要に応じ家族へも周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際にはその後家族と施設の見解の相違が生じないように時間をかけ丁寧に説明し、都度不明な点はないか等確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口(施設及び家族会代表への連絡も可能)や苦情受付箱を設置し、苦情や意見があれば記録に残し、早急に検討・対策を行い答えを申し出者に戻すよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	まずは職員から意見や提案が出やすい雰囲気・環境作りに努めており、日々の業務の中や朝礼時、毎月の職場会議の中で情報交換をしている。得た情報については管理者会議で話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の会議の中で経営報告や処遇改善等の説明、資格取得のバックアップや資格取得時の給与アップもについて代表者より報告があり、職員全員の周知を図っている。また、事業所内には職責ごとの役割を明記した一覧表も張り出し、職員の向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及び事業所ごとの勉強会の実施、新人研修等計画的に教育を行っている。また、年に3回の自己評価・管理者評価を行いそれを基に個人面談を行い職員一人ひとりと向き合うよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市のグループホーム連絡協議会や町の介護事業所連絡協議会、及び市町村主催の研修会には積極的に参加し、その中で情報交換等行いながら互いの質の向上が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のことを考えながら声かけや様子観察を行い施設での生活になれて頂けるように努めている。利用者との会話等を通して信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所時に家族の方が話しやすい雰囲気を作り要望や悩みを聞き取ることによって安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所以外の相談にも応じている。必要であれば当法人内外のサービスの説明を行い、選択肢の幅が広げられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の「家族として暮らす」を意識し職員が自分の家族との思いで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話時家族の希望があれば、本人と話をさせて頂きまた家族の方も行事への参加にて本人と共に楽しんでもらうことで家族と本人の絆を維持し大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店やかかりつけの病院受診、家族や知人の面会などこれまでの関係を継続し家族との外出などの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や個性を把握し行事やレクリエーション、生活リハビリへの参加の声かけを行い利用者同士の交流が図れるように支援している。居室で過ごされる方には訪室時会話したり、ドアを開けておく事で行事等の雰囲気を感じてもらっている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された時はお見舞いに伺ったり退所後の家族と再会した時は本人や家族の近況を尋ねたりしてこれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に尋ねたり又、本人との会話や表情、行動にて希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中からこれまでの暮らし方を聴きとると共に家族やケアマネなど本人と関わりのある方から情報を受け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の記録や夜勤、日勤者の申し送りにて職員が状態を把握し残存機能が低下しないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い介護計画に基づきケアの統一を図っている。毎月のモニタリングによりケアの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌や月間チェック表を用いてケアや状態を把握し職員間で共有している。問題点があればその都度ミニカンファなどを見直しや改善をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の要望やさまざまなニーズに対応出来るようにその都度カンファレンスを行いながら柔軟な支援が出来るように努めている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りやどんどや等の行事に参加することで利用者の方を知ってもらい、施設内の行事には区長、民生委員、老人会会長の方にも参加していただき交流を楽しんでもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される主治医に受診して頂きその際は、情報を提供している。受診日以外の際は電話での報告や相談にて指示を受けるなど適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を把握し変化があれば、看護師に報告、相談を行い受診往診の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー等の情報提供を行い面会時家族や看護師等に状態を尋ねるなどして状況を把握し退院時は、病院関係者と情報交換して状態によっては、受け入れ可能であり再入所の備えは行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の医療についての事前調査書に記入してもらい、利用者が終末期になられた時は、再度家族の意向や希望を確認し主治医、家族と連携を取りながら本人や家族を支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに基づいて対応している。事業所で行う年間研修の一つに取り入れて職員に確認を行っている。また応急手当普及員を受講した職員による事業所内の講習を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し消防署から評価、指導を受けている。災害時マニュアルを職員に周知徹底をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき利用者の方は、人生の先輩であると思い、人格や自尊心を傷つけない声かけを意識し心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方からも話しかけやすい雰囲気を作り会話や表情から本人の思いや希望を出来るだけ汲みとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴などは本人のペースや体調に合わせている。生活リハビリやレクリエーションなどの声かけはするが無理強いはせず又日中過ごされる場所も居室やフロア、畳コーナー等利用者の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットや近所の理髪店への外出支援をしている。毎日の洗面。整髪の支援や衣類は清潔に保ち入浴時の着替えは利用者と一緒に選んだりその季節にあった物を着る事が出来る様に支援して		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注し盛りつけは、施設で行っている。食器洗いも食洗機を使用している。食器拭きは、一緒に行っている。毎食時の献立を表示し提供時に再度献立を聴いてもらい食事に関心を持ってもらえるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事量を把握し、食事量や水分が少ない時は申し送りや、声かけ、食器、盛りつけ、水分提供時の温度等に工夫をしながらよく食べて頂けるように支援している。嗜好品や栄養補助食の使用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけしその方に応じた口腔ケアの支援をしている。歯科医の往診にて口腔状態の把握や清潔保持が出来るように支援をしている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄のパターンやサインを把握し見逃さない様にして、その方やその時に合った声かけを行いスムーズな排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の確認や把握をし水分補給を促しながら主治医に報告、相談し必要時は薬による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まってはいるが、入浴の際には必ず声かけし本人の同意を得ている。入浴の時間も午前、午後と希望を伺っている。なかなか入浴されない方には声かけの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中利用者の方の状態をみて休息の声かけを行ったり希望される方には、休んで頂いている。日中の活動やその方に合った寝具、照明等により安眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルにて管理して必要時は確認する事が出来る。毎食事の薬のセット時は複数の職員にて確認し、与薬時は氏名、日付け等を声出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職歴を把握しその方が得意で今も出来る事を見つけながら編み物や歌、洗濯たたみなどの役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望や体調に合わせて外出支援を行っている。近隣の散歩や季節の花見などに外出している。毎年のバス旅行には、家族や区長など地域の方も参加されている。		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での利用者の方の金銭の所持はなく使用されることはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人や家族からの希望があれば、職員が取次をし話をされている。手紙の代筆はないが、本人宛の年賀状など希望により代読を行うなどの支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日や夕食後はフロアや居室の明かりに気を付け落ち着かれるように配慮している。花や飾り物にて季節感を採り入れ心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶の時間など利用者の好きところで飲んでもらったり、気の合う利用者同士で過ごしてもらおうなどの工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物は使い慣れた物や好みの物を持参されるように声掛けしている。ベッドや布団など本人に応じた居室になるように心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たたみやモップ掛けなど声掛けを行いながら利用者のできることを見極めそのことを活かした支援をしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ひまわり21長洲

作成日 令和 3年 1月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	今年度はコロナ感染拡大防止のため、運営推進会議が書面での報告となり、ホームからの発信のみであり、委員の方々からの意見等を聞く機会が得られなかった。	推進委員からの意見や情報を聞き取り、事業所の運営に役立て、より良いサービスの提供に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・書面での報告となった場合には、報告書とともにアンケート用紙の添付を行い、後日回収し、意見や情報を求める。意見等については次回の推進会議で報告・回答し、委員全員の共通理解・情報共有とする ・極力事業所内での開催ができるように場所の選択や密にならないような工夫を今以上に行っていく。それでも感染防止の観点から事業所内での開催が困難な場合には、地域の公民館等の利用を検討する 	6か月
2	10	コロナ感染拡大予防のため家族の面会にも制限を設け、家族との面会も殆どできない状況であり、家族と対話する機会を設けることができづらかった。利用者の状況報告を電話等で行うことはあっても家族の意見や意向を聴くには至らなかった。	家族の意見・意向を聴きとる体制作りを行い、家族に安心感を持ってもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に（1～2回/年）家族アンケートを実施しながら家族の意見を汲み取ることが出来るよう努める ・電話等のやり取りの時にもさりげなく家族の意向を聴きだせるよう、日頃より関係を密にし信頼関係を構築できるよう努める 	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

